

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01473

研究課題名（和文）北東アジアにおける帝国の情報ネットワーク

研究課題名（英文）Information Network of Empires in North-East Asia

研究代表者

土屋 礼子 (Tsuchiya, Reiko)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：00275504

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,700,000円

研究成果の概要（和文）：国際シンポジウムをコロナ禍の中、2021年度と2022年度に、計二回開催した。そこで
の発表を踏まえて、Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1894-1953: New Perspectives
(ISBN978-0-367-64823-7)を共編著にて出版した。また、地理情報システム(GIS)を用いて、日本外務省が
1909年から1937年まで毎年行った、中国大陸で発行された新聞や雑誌に関する調査報告書を基に、中国58都市で
発行されたのべ9225紙（実質2414紙）の新聞雑誌に関するデータを地図に反映させ、これを時系列に展開できる
システムを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北東アジアにおける帝国主義と情報のネットワークの関係について、中国、ロシア、日本、朝鮮といった複数の
国家や地域を横断する人と情報の越境的な移動について、外交問題やシベリア抑留における捕虜の収容所の確
定、新聞記者の国際的交流などの実態を明らかにすることができ、学際的な歴史研究を進展させることができ
た。また、地図情報データベースを用いて、二十世紀前半の中国大陸の主要都市における、日本語、中国語、ロ
シア語を含むさまざまな言語の新聞雑誌の情報と出版動向を包括的に把握するシステムを開発した。これによ
り、地理的な相違と時系列による相違が視覚化され明確に整理されるようになった。

研究成果の概要（英文）：We organized international symposia twice in total, online in FY2021 due to the coronal disaster and at Waseda University in FY2022. Based on the research presented there, we co-edited and published Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1894-1953: New Perspectives, (Routledge, September 2023, 276 pages, ISBN978-0-367-64823-7) We also built the digital system based on a geographical information system (GIS) to provide data on a total of 9225 newspapers and magazines (actually 2414 newspapers and magazines) published in 58 cities in China, based on annual survey reports on newspapers and magazines published in mainland China by the Japanese Foreign Ministry from 1909 to 1937, including location, owner, lead author and circulation. The system was built to reflect all data on a map, and to tabulate and develop this data in chronological order.

研究分野：国際関係論関連

キーワード：メディア 地図 帝国主義 移動 20世紀 新聞雑誌 外交問題

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

北東アジアの近現代史において、英国・日本・ロシアなどが繰り広げた帝国主義の歴史的研究は、従来の外交史、軍事史、経済史、植民地統治における政策や官僚機構・法制度などに加えて、近年では人の移動や観光、文学やジェンダー等の文化面からの研究が活発に行われてきている。特に旧日本帝国の植民地・占領期に関する研究は、満洲国研究を含めて過去二十年ほどの間に、大きく進展している。その中でも新たに注目されている領域は、メディア、あるいは情報ネットワークと帝国主義との関係である。

帝国主義とメディアの関係は、戦時のプロパガンダが注目されるが、宗主国が植民地などを統治するために導入したという側面とともに、知識を広め世界の情報網に接続させることで人々の生活を変容させ近代化や民主化を導いたばかりでなく、他国や他民族の文化や状況について理解を促し国際関係に関する世論を形成する機能も持っていた。しかし、北東アジアの中でも日本が長期にわたり深く関わった、中国東北部(旧満洲)から、モンゴル東部、アムール川(黒竜江)流域を中心とするシベリア南東部、サハリン(樺太)までのロシアの影響が強い地域における、帝国主義とメディアの関係は研究があまり進んできていない。この地域における情報ネットワークは日本にとっても、ロシア、英米の帝国主義にとっても非常に重要であった。したがって、この地域の新聞雑誌の発掘は大変重要な価値がある。

また、20世紀前半において未開発地域であったロシア影響下の北東アジアにおいて重要だった電信とラジオ放送、および船舶と鉄道の交通網の発達に伴う人的移動による情報のネットワークも重要である。これは、帝国主義の統治における情報とメディアの多層性が、北東アジアでは国際的な関係の中でどのような様相を示し、他の地域におけるネットワークと比較して、どのような特徴を持っていたかという問いにつながる。

このような本研究のアイディアは、早稲田大学と英国クィーンズ大学ベルファストとの国際共同研究「Competing Imperialism in Northeast Asia, 1894-1953」(2019年1月~2020年4月、略称CIRNプロジェクト)の中から生まれた。その学際的研究を引き継いで発展させようと考え、またこの共同研究でできたサンクトペテルブルグ国立大学の研究者との連携が、本研究を具体的に開始する契機となった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日清戦争が起きた1894年から朝鮮戦争休戦の1953年までの約60年間に、ロシア影響下の北東アジアにおいて、どのような新聞雑誌が発行流通し、また電信・ラジオ放送及び交通網の発達に伴う人的移動を含めた情報ネットワークがどのように構築され変遷し、また国際関係に対する輿論に影響したのかを明らかにすることである。

本研究の独自性は、第一にまだ研究の進展していないロシア影響下の北東アジアでの情報ネットワークに着目し、ロシアのアーカイブでの長期の資料調査を試みることで、これまでの研究の停滞と空白を突破しようとする点である。近年ロシアのアーカイブに所蔵されている北東アジア関係の資料が、例えばタチャナ・イゴレヴィナ・ヴィノグラドヴァ「ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルグ支部図書室の蔵書の一部としてのサハリンコレクション」(2013)などのように紹介されてきているが、ロシアのアーカイブに所蔵されている日本語、中国語、朝鮮語、英語などの新聞雑誌はまだ充分調査されていない。そこでロシア語及び各言語に堪能な分担者との共同調査により新たな資料発掘を試みる。

第二の独自性は、従来ばらばらに研究されてきた新聞雑誌、電信および放送といったメディアと、鉄道、船舶などの交通による人的移動の両面から統合して、北東アジアにおける情報ネットワークの多層性をデータ化し、複数の動線から立体的に捉えて視覚化し、その全体的構造と変遷を明らかにし、帝国がせめぎ合う他の地域との比較が可能になる基盤をデジタルデータとして創造しようとする点である。このために、協力者として英国クィーンズ大学ベルファストのアグライア・デ・アンジェリ准教授に参加してもらい、歴史的GISデータに基づくインタラクティブ地図の手法を利用し、デジタルデータで情報ネットワークを視覚化する試みを発展させる。これにより、この地域における情報ネットワークを国境にとらわれず、かつ長期的な変遷も含めて可視化することが可能となる。これは将来的には教育にも利用できる、非常に創造的かつ挑戦的な試みである。

3. 研究の方法

本研究では、1894年から1953年までの約60年間に北東アジアにおける帝国の情報ネットワークがどのように構築され、変化したのかを明らかにするために、対象地域の主要都市、すなわちハルビン、長春(新京)、瀋陽(奉天)、清津、平壤、ハバロフスク、ウラジオストク、ユジノサハリンスク(豊原)などに着目し、従来公表されている外務省や軍の公文書、あるいは企業や団体の文書、新聞雑誌の記事、年鑑や図書類、個人の書簡や手記などの文献から、対象の主要都市におけるメディアと交通、人的移動に関する情報をデータ化することを第一の方法とした。これと並行して、ロシアのアーカイブで毎年三週間の長期にわたる共同の資料調査を行い、

主要都市における新聞雑誌などの印刷物の発行・流通状態、電信やラジオ放送などのメディアの状況について、英語・ロシア語・韓国語・中国語および日本語による多言語を横断した資料の発掘と解説を行った。さらに収集した情報ネットワークに関するデータを編年で整理し、デジタル化して地図の上に展開し、その変化を視覚的に追えるように地理情報システム（GIS）を用いることにした。研究メンバーは、毎月定例の打合会をオンラインで行い、相互の進捗状況を確認し、情報を共有した。

4. 研究成果

(1) サンクトペテルブルグ大学との国際シンポジウムの実施：2021年9月8日～10日

当初予定していた、サンクトペテルブルクおよびウラジオストクでの資料調査は、コロナ禍のため実現できなかった。その代わりに、サンクトペテルブルグ大学の研究者達とオンラインで国際シンポジウム *Competing Imperialisms in Northeast Asia: New Perspectives* を開催した。この一日目には、サンクトペテルブルグ大学の東アジア図書館の所蔵資料についての講義によって資料への知見を深めた。また二日目、三日目には、プロジェクトメンバー全員が研究報告を行い、ロシア及び英国の研究者たちと議論した。また、2022～2023年度には各自その補充となるようなアーカイブ調査を、カザフスタン、トルコ、米国、ドイツなど別の外国に出かけて、資料を収集し、その成果を各論文に反映させた。

(2) 「北東アジア情報ネットワーク地図データベース」(GIS Database for information networks of Empires in North-East Asia) の作成と公開：

このデータベースは、地理情報システム（GIS）の技術を歴史地理学と組み合わせ、既存のデータやすでに編集された地図、地図帳、地形資料などに適用することで、これまでの断片的なアプローチよりもより深い理解や思考を誘発するような課題を提供する試みである。早稲田大学とクイーンズ大学ベルファストは、この科研プロジェクトのためのGISを2021年から2022年の間に共同で開発した。具体的には、日本外務省が1909年から1937年まで毎年行った、中国大陸で発行された新聞や雑誌に関する調査報告書を基に、中国58都市で発行された、のべ9225紙（実質2414紙）の新聞雑誌について、所在地、持主、主筆、発行部数、主義主張など刊行物に関するあらゆる面の情報を地図に反映した。これにより、当時の中国における出版事業の全体像を把握することが可能となった。これは中国およびアジアのメディア史研究に対して新たな視座を提示する。さらに朝鮮半島、台湾、樺太などのデータも加え、新聞紙面や建物や人物の写真などのデータも追加し、世界中の研究者に公開すれば、戦前期の北東アジアにおける定期刊行物の全体像を空間的に、また時系列で把握することが容易になるだろう。これは現在、早稲田大学のウェブシステムで公開されている。<https://prj-imperialasia.w.waseda.jp/>

(3) 早稲田大学における国際シンポジウムの開催：2023年3月19日

海外資料調査とGISデータベースの研究成果を、国際シンポジウム「北東アジアにおける帝国情報ネットワーク～地理データと歴史情報との組み合わせによる新視角」で発表した。土屋礼子「朝鮮戦争のラジオ・プロパガンダ分析にみる“帝国主義”」、小林聡明「アメリカ宣教師情報ネットワークと植民地朝鮮」、ヤロスラヴ・シュラトフ「ソ連領に不時着した米軍パイロットをめぐって：第二次世界大戦期の日ソ米関係(1942-1945)」、小林昭菜「メタバースを利用した歴史教育 シベリア収容所のケース」、またアグリシア・デ・アンジェリなどによる「新聞を地図上に配置する：科研プロジェクトにおける地理情報システム(GIS)」の発表で、前項のGISを用いた「北東アジア情報ネットワーク地図データベース」をお披露目した。

(4) 国際共著の刊行：

Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1894-1953: New Perspectives edited by Aglaia De Angeli, Peter Robinson, Peter O'Connor, Emma Reisz, Reiko Tsuchiya, Routledge, September 2023, 276 pages (ISBN978-0-367-64823-7) を、この科研費プロジェクトと、その前身である早稲田大学と英国クイーンズ大学ベルファストとの国際共同研究「Competing Imperialism in Northeast Asia, 1894-1953」(2019年1月～2020年4月、略称CIRNプロジェクト)の成果として、刊行した。これには研究代表者の土屋礼子が編者として加わり、また第三章の論文“Media and imperialism in international press conferences before WWII” (pp.47-62)を執筆した。また研究分担者のシュラトフ・ヤロスラヴが第七章の論文“ The Key Rivalry: Russo-Japanese Relations and International Order in Northeast Asia, 1895-1945 ”を執筆、研究分担者の小林昭菜が第六章の論文“From Japanese Militarism to Soviet Communism The ‘Change of heart’ of Japanese POWs through Soviet Indoctrination.”を執筆した。この本は電子版でも出版された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Shulatov, Yaroslav	4. 巻 -
2. 論文標題 The Key Rivalry: Russo-Japanese Relations and International Order in Northeast Asia, 1895-1945	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Competing Imperialisms in Northeast Asia New Perspectives, 1894-1953	6. 最初と最後の頁 121-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003126430-10	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 シュラトフ・ヤロスラフ	4. 巻 110
2. 論文標題 サハリン問題をめぐる日ソ協議 国交正常化の準備段階（1922-23年）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 77-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 .	4. 巻 -
2. 論文標題 .	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 .	6. 最初と最後の頁 28-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Tsuchiya	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese Mass Media	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The New Cambridge History of Japan, Volume III The Modern Japanese Nation and Empire (1876-2011)	6. 最初と最後の頁 645-670
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Reiko Tsuchiya	4. 巻 -
2. 論文標題 Media and imperialism in international press conferences before WWII	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1894-1953: New Perspectives	6. 最初と最後の頁 47-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 土屋礼子	4. 巻 23号
2. 論文標題 国連軍の心理戦からみた朝鮮戦争におけるラジオ・プロパガンダ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 114-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Goldman, Stuart, & Shulatov, Yaroslav	4. 巻 Vol. 35, No.6
2. 論文標題 Friendly Deception: The Soviets devised a top-secret operation to repatriate U.S. airmen downed in Siberia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 World War II	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 シュラトフ・ヤロスラブ	4. 巻 67号
2. 論文標題 ロシア革命とサハリン : 日露関係から日ソ関係へ(1917-1922年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 スラヴ研究 = Slavic studies	6. 最初と最後の頁 59-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土屋礼子	4. 巻 23
2. 論文標題 国連軍の心理戦から見た朝鮮戦争におけるラジオ・プロパガンダ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 114-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋礼子	4. 巻 22号
2. 論文標題 大正期の国際的新聞大会にみるメディアと帝国主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 84-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡明	4. 巻 23
2. 論文標題 冷戦研究をめぐる困難、その可能性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡明	4. 巻 7号
2. 論文標題 CIA・米慈善団体・在日支援：一九五〇年代中葉を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 抗路	6. 最初と最後の頁 142-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡明	4. 巻 58号
2. 論文標題 太平洋戦争期アメリカ情報機関とG.M.マッキューン：一九四一年一月-四三年九月：C01/OSSにおける宣教師らからの朝鮮情報収集活動に焦点をあてて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朝鮮史研究会論文集	6. 最初と最後の頁 127-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林昭菜	4. 巻 28
2. 論文標題 青年期のスターリン 神学校時代のソソとコーバ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 多摩大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akina Kobayashi	4. 巻 -
2. 論文標題 From Japanese Militarism to Soviet Communism The 'Change of heart' of Japanese POWs through Soviet Indoctrination	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1894-1953: New Perspectives	6. 最初と最後の頁 106-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小林昭菜	4. 巻 62巻4号
2. 論文標題 ロシアからみたウクライナ問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 13件）

1. 発表者名 Shulatov, Yaroslav
2. 発表標題 Lost And Found In The Taiga: The U.S. Airmen in the Soviet Union During World War II
3. 学会等名 Virginia Museum of Fine Arts (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shulatov, Yaroslav
2. 発表標題 Japan in the Pacific War: the Soviet View (1941-1945)
3. 学会等名 Waseda Seikei FWS
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 . . .
2. 発表標題 :
3. 学会等名 Lectorium Oriens. (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shulatov, Yaroslav
2. 発表標題 Japan and World War II: the Soviet View
3. 学会等名 ANU Japan Institute Seminar
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shulatov, Yaroslav,
2. 発表標題 Japan in World War II: the Soviet Perspective
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies (EAJS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 .
2. 発表標題 :
3. 学会等名 Lectorium Oriens. (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 . . .
2. 発表標題 (1942-1945) :
3. 学会等名 国際会議 文明のクロスロード15 『比較類型論研究のプリズムを通じて、異なる文化、民族性、言語の相互理解』 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 シュラトフ・ヤロスラブ
2. 発表標題 ソ連領に不時着した米軍パイロットをめぐる:第二次世界大戦期の日ソ米関係(1942-1945)
3. 学会等名 国際シンポジウム「北東アジアにおける帝国情報ネットワーク～地理データと歴史情報との組み合わせによる新視角 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 シュラトフ・ヤロスラブ
2. 発表標題 20世紀前半の日露関係：東アジアにおける国際秩序の変容
3. 学会等名 早稲田大学ロシア東欧研究所
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋礼子
2. 発表標題 リオスノフ文書に見る朝鮮戦争における心理戦とその後
3. 学会等名 早稲田大学20世紀メディア研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 土屋礼子
2. 発表標題 戦後日本のジャーナリズムにおけるアメリカの影響
3. 学会等名 日仏会館シンポジウム：戦後メディア産業の現代化を問い直す - 日仏比較の視点から（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Reiko TSUCHIYA,
2. 発表標題 Media, International Cooperation and Academia in Historical Perspective
3. 学会等名 The International Forum on Global Media and Communication at Uncertain Times: Building Collaboration Through Teaching and Research:（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋礼子
2. 発表標題 朝鮮戦争のラジオ・プロパガンダ分析にみる ” 帝国主義 ”
3. 学会等名 国際シンポジウム「北東アジアにおける帝国情報ネットワーク～地理データと歴史情報との組み合わせによる新視角（国際学会）」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 韓国研究支援をめぐる韓国の対西ドイツ外交：1960-80年代
3. 学会等名 アジア政経学会 秋季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 冷戦史と感情史の交錯 - 研究発展のための課題と展望
3. 学会等名 韓国・国立全北大学 韓国科学文明学研究所（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 冷戦史研究の課題と感情史研究の可能性 - 東アジアの過去事解決のための手がかりを模索して -
3. 学会等名 済州4・3研究所 国際シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 韓国外交文書から見る沖縄返還前後の東アジア国際関係
3. 学会等名 第21回 戦争史研究国際フォーラム 「冷戦期の日本の安全保障と朝鮮半島」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 台湾で考える冷戦研究の課題と展望 - 「感情」をめぐる議論と東アジアの文脈を手がかりとして -
3. 学会等名 台湾・国立政治大学歴史学系(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 韓国における中共・中国呼称問題－1970～80年代を中心に－
3. 学会等名 日本国際問題研究所 東アジア史研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 アメリカ宣教師情報ネットワークと植民地朝鮮
3. 学会等名 国際シンポジウム「北東アジアにおける帝国情報ネットワーク～地理データと歴史情報との組み合わせによる新視角(国際学会)」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akina Kobayashi
2. 発表標題 Japanese Prisoners of War in Mongolia
3. 学会等名 Mongolia and Japan: From the Dynamism of Eurasia (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林昭菜、加藤聖文
2. 発表標題 戦争は何をもたらすのか?
3. 学会等名 平和祈念展示資料 館シンポジウム 「戦争の先にあるもの 過去から現在・未来へ」 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林昭菜
2. 発表標題 メタバースを利用した歴史教育 シベリア収容所のケース
3. 学会等名 国際シンポジウム「北東アジアにおける帝国情報ネットワーク～地理データと歴史情報との組み合わせによる新視角 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shulatov, Yaroslav
2. 発表標題 The Key Rivalry: Russo-Japanese Relations and International Order in Northeast Asia in 1895-1945
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: New Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 シュラトフ・ヤロスラブ
2. 発表標題 ロシア極東のアジア系住民：朝鮮人を中心に（19世紀後半－20世紀前半）
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター主催 2022年度公開講座『溶解する帝国 - ロシア帝国崩壊を境界地域からえる』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Reiko TSUCHIYA
2. 発表標題 Media and imperialism in international press conferences before WWII
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: New Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Reiko TSUCHIYA
2. 発表標題 Propaganda Leaflets against the Japanese by the Allies: Insight, Revelations and Japanese American Contributors
3. 学会等名 Fanning the Flames Speaker Series", Hoover Institute & Archives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋礼子
2. 発表標題 朝鮮戦争における宣伝ピラについて
3. 学会等名 早稲田大学現代政治経済研究所20世紀メディア研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 KOBAYASHI Somei
2. 発表標題 Public Diplomacy of Japanese Empire and Imperial/Colonial Fraternity: The Carnegie Endowment's Tour for American Journalists to the "Orient" in 1929
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: New Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KOBAYASHI Akina
2. 発表標題 From Japanese militarism to the Soviet communism - the "change of heart" of Japanese POW through the Soviet indoctrination
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: New Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Aglaiia De Angeli, Tsuchiya Reiko, Peter Robinson, Emma Reisz, Peter O' Connor	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 276
3. 書名 Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1894-1953: New Perspectives	

1. 著者名 白木沢旭児 (編集代表) シュラトフ・ヤロスラブほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 日ソ戦争史の研究	

1. 著者名 原暉之, 兔内勇津流, 竹野学, 池田裕子 編著、シュラトフ・ヤロスラブほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 456
3. 書名 日本帝国の膨張と縮小	

1. 著者名 梅森直之 編, 野尻英一、小林聡明ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 452
3. 書名 アボリアとしての和解と正義	

1. 著者名 釜慶大大学校人文韓国プラス事業団編、小林聡明ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ソミョン出版(原文はハングル)	5. 総ページ数 423
3. 書名 北東アジア海域と産業化・港湾援助者(原文はハングル)	

1. 著者名 韓国独立運動史研究所編、小林聡明ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 独立記念館 韓国独立運動研究所(原文はハングル)	5. 総ページ数 369
3. 書名 第二次世界大戦期の韓国独立運動と米国(原文はハングル)	

1. 著者名 ハム・ドンジュほか編、小林聡明ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 先人(原文はハングル)	5. 総ページ数 400
3. 書名 新しく書く地域史と世界史 - 研究方法・教育モデルと事例(原文はハングル)	

1. 著者名 森口(土屋) 由香、川島 真、小林 聡明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 466
3. 書名 文化冷戦と知の展開	

1. 著者名 井川 充雄、木村 忠正、土屋礼子、小林聡明ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 入門メディア社会学	

1. 著者名 浅野豊美 編、梅森直之、土屋礼子ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 和解学の試み	

1. 著者名 崔銀姫 編著, 鄭根埴, 土屋礼子ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 480
3. 書名 東アジアと朝鮮戦争七〇年	

1. 著者名 荒木和華子, 福本圭介 編著, 小林聡明ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 帝国のヴェール	

1. 著者名 南塚信吾 責任編集, 藤田進, 小林昭菜ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 国際関係史から世界史へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>北東アジア情報ネットワーク地図データベース http://www.waseda.jp/pri-imperialasia (2024年4月以降) https://prj-imperialasia.w.waseda.jp/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 聡明 (Kobayashi Soumei) (00514499)	日本大学・法学部・教授 (32665)	
研究分担者	シュラトフ ヤロスラフ (Shulatov Yaroslav) (30726807)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	小林 昭菜 (Kobayashi Akina) (20784169)	多摩大学・経営情報学部・准教授 (32695)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	オコナー ピーター (O' Connor Peter)		
研究協力者	デ・アンジェリ アグライア (De Angeli Aglaia)	英国クィーンズ大学ベルファスト	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 「北東アジアにおける帝国情報ネットワーク～地理データと歴史情報との組み合わせによる新視角」	開催年 2023年～2023年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関